

CT で予想外の大きさが判明した肺癌の 2 症例—胸部写真との比較—



症例 1-a



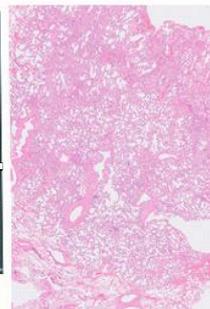
症例 1-b



症例 1-c



症例 1-d



症例 1-e

症例 1 ; 80 歳代の女性. 他疾患手術時の胸部写真にて異常影を指摘されたとの事であるが, 病変部は明らかでない (図 1-a). 胸部 CT で左上葉に 3.5cm 大のスリガラス影を認めた (図 1-b,-c). 精査にて肺腺癌と診断されたので, 鏡視下に左上葉切除+リンパ節郭清術を施行した.

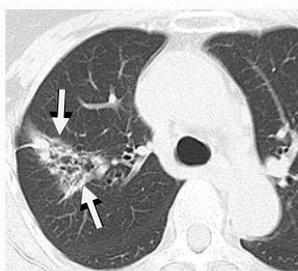
病理組織学的には異型細胞が肺胞上皮置換性に増殖し, 大きさ 50mm に及ぶ pT1aN0M0 stage IA1 の上皮内癌と判定された (図 1-d,-e).



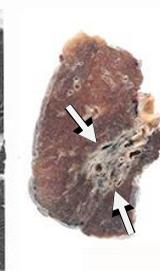
症例 2-a



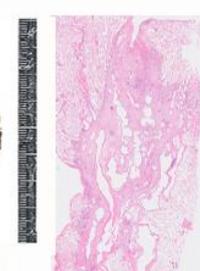
症例 2-b



症例 2-c



症例 2-d



症例 2-e

症例 2 ; 70 歳代の女性. 前医の胸部写真にて左肺に異常を指摘されたが (図 2-a), CT では左に異常はなく, 右上葉に 3.5cm 大の異常影を認めた (図 2-b,-c). 精査にて腺癌と診断されたので, 鏡視下に右上葉切除+リンパ節郭清術を施行した.

病理組織学的には肺胞上皮置換性増殖を示す 35 mm 大の腺癌で一部に浸潤を示し, pT1aN0M0, stage IA1 と判定された (図 2-d,-e).

考察 : 肺胞上皮置換部分を有する高分化腺癌は胸部写真において境界不鮮明な淡い陰影を呈するので肺癌の X 線診断を難しくする. このような症例では肺野における僅かな左右の濃度差が重要であるが, その読影は容易でない. 今回の 2 症例も CT 画像や組織像からも明らかな様に, かなり大きな病変があったにも拘わらず, 胸部写真上には大きな変化を認めなかった. 近年, このような症例が増えているので, 注意が必要である^{1) 2)}.

文献 : (1) William D. Travis, MD, J Thorac Oncol. 2011; 6(2): 244-285. (2) 楠本昌彦, 肺癌 2006;46(1):59-63